

仙人通信 97 雨ヶ岳 (1771m) 竜ヶ岳 (1465m)

雨ヶ岳・竜ヶ岳は本栖湖の南に鎮座する、山梨・静岡の県境の山で、竜ヶ岳は正月のダイヤモンド富士として、多くの方に親しまれている。国道 139 号線の「道の駅」を過ぎ根原の信号の次の路地を左に折れて、100m程の所にある浅間神社前の広場に向う。この広場に駐車してスタートである。ゲートを抜けて、檜林の中のコンクリート道路を 10 分程進んだ所が貯水池のある広場である。丈が 2 m もあろうか、枝の先に枯れた花を付けたイタドリが広場の主役だ。

広場の上空の青空に、富士山に向かい先端が捲れ上がった絹雲が風の強さを教えてくれる。

5 分程で東海遊歩道の大きな案内板があり、ここからが登山道だ。生い茂った暗い杉の木立の下木である山アジサイやクロモジが黄色い葉を付けて、晩秋を伝える。やがて左手に瀬音が聞こえ、耳を澄ますとミソサザエが笑うかのような鳴き声で、我をお迎えてくれる。程なく小さな沢を対岸に渡る。沢の殆どの岩は密度の高い玄武岩のようだ。竜ヶ岳から毛無山にかけては、御坂層群の古関層の地層で、今から 1500 万年前のものだそうだ。富士山と比較すると古い地層である。

25 分程で、本栖湖と端足峠への分岐点、さらに 20 分の九十九折の登りが続き、杉木立からツガの木へと変わり、明るい端足峠である。眼下には本栖湖が青く輝く 1272m の峠である。よく観えていた富士山に時折雲が掛かり始めた。ラジオの天気予報では、駿河湾沖の前線に低気圧が発生して静岡地方の今日は終日曇りとのことである。それに反して山梨側は見事な青空で、雪を頂いた大菩薩・笠取山が稍越しではあるが、くっきりと浮でいる。雨ヶ岳に向う緩やかな登りでは、多くのマユミの実が山肌を赤く彩る。10 分の登りの後は、15 分程尾根を下り、続いて山頂までの急登が始まる。腰丈程の笹の原にブナ・躑躅・リョウブ・ミズ榎・桜等落葉樹の尾根道は、ほぼ真直ぐなキツイ登だ。15 分程登ったろうか、雲間から、雪を冠った富士山が顔を出す。

右手では、三方分山の先に五丈岩の金峰山が、蛾ヶ岳の先には八ヶ岳の赤岳・甲斐駒・鳳凰三山と青空に白く浮かぶ、梢が無かったら、最高の撮影ポイントである。道標にマジックで山頂まで 50 分とある (小生の実測でもピッタリであった)。ブナの巨木の中の朽ちた太い幹に、50cm を越える白い見事なサルノコシカケを発見し、しばし見入ってしまった。やがて霧が掛かり始め遠望は利かなくなる (予報通りだ)。峠から 95 分で笹の原の山頂に辿り付く。静岡方面は、濃い雲に覆われ視界ゼロだ。時折太陽が降り注ぎ、ダケカンバや笹の葉を明るく照らす。山頂で休憩後 50 分程で峠に戻り、東側に聳える竜ヶ岳に向う。尾根を進むに従い更に霧が濃くなる。10 分程進むと広く笹が刈り取られた緩やかな登りとなる。旧来は直登の木の階段であったが、ダイヤモンド富士の人気でこのように成ったようだ。10 分程でこの笹野原をつめると、マユミ・アセビ・クロモジ等の背の低い木々となり更にブナが主体とる。コゲラとヤマガラが鳴きながら、先導してくれる静かな山登りとなり、嬉しい限りだ。再び笹の原となり、山頂かと思ひしや、15 分近く芝付きのコースを辿り、なんと 45 分を要して山頂に辿りついた。山頂を示す表木には、アセビの木が取り囲み、真っ赤な蕾をつけて居るのが印象的である。視界が開ける事に期待して来たが何も見えない山頂で一休みして、端足峠を経て約 6 時間の山路となりました。東名高速インターの富士宮を入ると真白の富士山が望め、今日の締めくくりと成りました。(h 2 2 . 1 1 . 2 4)

端足峠



雨ヶ岳山頂



竜ヶ岳山頂

